

患者の皆様へ

2023年12月1日

脳神経内科

現在、脳神経内科では、「神経疾患における神経興奮性の関与を探索するための観察研究」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では（2018年～2021年4月30日に受診された神経疾患患者（筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン症候群、アルツハイマー病、ハンチントン病、筋強直性ジストロフィー、ジストニアなど）で、同研究に同意いただいた方）の診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 「神経疾患における神経興奮性の関与を探索するための観察研究」

2. 研究の意義・目的

研究の背景：神経細胞にとって、過剰な興奮は細胞死につながることで知られています。興奮性神経伝達物質であるグルタミン酸は、過剰に作用することで興奮毒性と呼ばれる虚血に似た障害を与えることが、各種の研究により証明されています。更に慢性的に興奮毒性を受けることで、神経細胞障害をもたらすことが、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病、ハンチントン病、筋緊張性ジストロフィーなどで報告されています。

意義・目的：各種神経疾患患者において実施された軸索興奮性機能検査および経頭蓋磁気刺激検査のデータを行い、臨床症状や各種検査との相関を検討し、興奮毒性が病態に及ぼす影響を検討します。この研究から得られたデータは、将来の治療薬開発に役立つ可能性があります。

3. 研究の方法

診療録に記載されている患者背景（性別、生年月、身長、体重、合併症、既往歴、原病歴、治療歴、治療反応性、予後等）、自覚症状、神経学的診察所見（高次脳機能、脳神経、筋力、握力、腱反射、感覚、協調運動、不随意運動、自律神経、日常生活動作等）、画像検査所見（頭部・脊髄・末梢神経 MRI 検査、CT 等）、神経伝導検査・筋電図所見、肺活量、心電図、血液・脳脊髄液検査等、軸索興奮性検査、経頭蓋磁気刺激検査等のデータを解析します。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に

管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学医学部附属病院筋電図室の鍵のかかる部屋の鍵のかかる保管庫で保管します。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をします。下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院脳神経内科

本件のお問合せ先 : 医学部附属病院脳神経内科

医師 澁谷和幹

043 (222) 7171 内線 5414

文部科学省・厚生労働省・経済産業省による「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。